
紙飛行機

日頃寝 ハル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紙飛行機

【Nコード】

N4337P

【作者名】

日頃寝 ハル

【あらすじ】

引きこもりの少し病んでる「私」が紙飛行機を折ります。それは誰にも届かないSOSのはずだった。

何もしないで一日を過ごしてしまった。

やっぱり私はだめだなあと思った。

きっと明日も同じように過ごすのだらうと思うと、明日が来るのが怖かった。

どんどんどん日が沈み、目に見える速さで太陽が落ちる。

ああ、太陽も重力には逆らえないんだ。とバカな事を考えた。

私は、まだ親も帰って来ないし、お風呂に入る気分でもなかったからテレビをつけた。

見たことのないニュースキャスターが、今日どこかの町で紙飛行機大会が行われたことを話していた。

テレビには体育館に一列に並ぶ、子供やお年寄り。

若いお兄さんもちらほらいる。

どれだけ長く、遠くへ飛ばせるか競っていた。

真剣な顔で紙飛行機を飛ばす子供達は微笑ましかったが、興奮気味に自分が作った紙飛行機を説明するお兄さんには少しひいた。

「上手く作ったらどこまででも飛びますよ。夢は世界一周です！」

お兄さんが言った事にアナウンサーは笑っていた。

私は笑わなかった。

紙飛行機の作り方なんて一つしか知らない。

一番シンプルな折り方だけど、とても丁寧に、丁寧に折った。

端がずれないように、折り目をしっかり押さえて。

出来た紙飛行機は、私の部屋から見える小さな月に向かって投げた。

カサリと何かが自分の腹に落ちた感覚で起きた。

辺りを見ると薄暗く、慌てて時計を見ると5時だった。

公園のベンチ。外回りの仕事中、少し休憩しようと横になってそのまま寝てしまったらしい。

会社に帰ろうと思い、ベンチに掛けていた上着を着ると何か白いものが落ちているのに気がついた。

拾ってみると、20センチ位の紙飛行機だった。

さてはこれがさっき腹に落ちてきたものだな。

そう思いなんとなく広げみると、そこには

『ぜんぶなくなればいいのに』

と書かれていた。

「何これ。呪い？」

周りを見ても誰もいない。

静かにブランコが揺れるだけだ。

薄ら寒い風が吹いた。

俺は上着の内ポケットからボールペンを出した。

生憎、幽霊だ、お化けだ、目に見えないものは信じていない。

折り目にそって紙飛行機を作り直し、星ひとつない暗闇に投げた。

後悔していた。

いくら病んでいたとはいえ、外に放り出してしまうなんて。

ご近所さんに拾われたら、恥ずかしくて外に出られなくなる。

幸い、私の部屋の窓の下は公園になっていて、こんな朝早くに人はいない。

私は紙飛行機が気になって、朝の5時半に目が覚めてしまったのだ。両親を起こさないよう、そっと家を出てまだ暗い公園の中を探し始めた。

紙飛行機は妙な所にあった。

私の部屋の一直線上ではなくて、ずっと左側の砂山に半分埋まっていた。

しかし、無事に見つかって良かった。

私は安堵し、上がって来る朝日より先に部屋に戻った。

私は私の部屋のゴミ箱に紙飛行機を投げたが失敗して入らなかった。

私はそれを拾ってもう一度投げたが、また入らなかった。

どうしても入れたくなつて、私は閃いた。

折り方を変えよう

紙飛行機の折り方なんて一つしか知らなかったが、自分なりのアレンジを加えて真っ直ぐに飛ぶようにしたかった。

紙飛行機を開くと、私の書いた言葉の下に、言葉が足されていた。

『ぜんぶなくなればいいのに』

『うるせー』

何故だか分からないけど、私は救われような気がした。

私は笑い出しそうになるのを堪えて、そっと机にしまった。

「そういえば、外に出たのすごく久しぶりだ」

気がつけば太陽の光が暖かく部屋に差し込んでいた。

真っ直ぐ飛べるかな。

世界一周だつてきつと、出来る。

（後書き）

読んでくださってありがとうございます。

紙飛行機。

小さい頃、数え切れない程折って、飛ばしていたのに、
今では全然作らないなあ。

誰もいない。一人ぼっちだと思っていた時の、誰かの言葉ってすごくありがたいと言うか、勇気になります。
そんな勇気が自分を救うんだと思います。

感想・問題点のご指摘お願いします。ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4337p/>

紙飛行機

2010年12月11日20時07分発行